

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 3 月 8 日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標・工夫している点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		4	児童ルームは子供たちがのびのび過ごせる広い空間となっております。活動内容や利用人数をみながら部屋の使用方法を検討していきます。
	2	職員の配置数は適切である	8		3	職員は適切に配置していますが、個別支援を必要とするお子さんの対応を考慮すると、十分とは言えないと感じています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリーの配慮が適切になされている	6		5	事業所内での設備等については、基本バリアフリーの配慮はしています。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2		6	3 全職員までは参画を促せていないが、文書等にて情報共有ができるように努めています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		2	アンケートの結果を受け、可能な限りプログラム内容などに反映させている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11			ホームページにて公開予定です。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			11	現在、第三者による評価は実施していませんが、今後検討していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2		9	法人内研修は参加している。今後は外部研修にもできる限り参加できるように努めています。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11			聞き取りを行い、利用者・保護者のニーズを十分に理解したうえで計画に組み込んでいる。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11			共通のアセスメントシートを利用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		3	職員全員で取り組んでいる。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		5	日々の活動内容を検討し、利用者の成長に合わせて次のステップに進めるようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	11			ひとり一人に合った課題に取り組み、達成感が感じられる体制を取っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8		3	個々の状況を見ながら、個別活動と集団活動を上手く組み合わせ計画を立てるようにしている。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		7	支援開始前に全職員でミーティングを行っています。職員ひとり一人が共通認識をもって支援ができるように努めています。	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	5		職員全員が揃う時間が一定でない為、振り返りが翌日になることもあります。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11			必ず記録を行い、気づいた点は支援会議で話し合うようにしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11			半年に一回はモニタリングを行い、お子さんや保護者の方のニーズや課題の把握に努めている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	7	4		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11			
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	11			学校行事について確認をし、送迎時間等の調整を行っている。学校での様子はお迎え時に先生にお聞きしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			11	医療的ケアが必要な子供の受け入れは現在行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	11			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	11			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		11		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			11	発達状況や障害特性により交流が難しいため実績はありません。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	11			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11			送迎時にお子さんの状況をフィードバックしたり、家庭や学校での状況やかだいについて情報を共有させて頂いている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4	6	ペアレントトレーニングは当事業所では行っていないが、今後検討していきます。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11			必要に応じて行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4	7	これまで保護者会等の開催実績はないが、今後茶話会などを検討していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	11			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11			
	35	個人情報に十分注意している	11			情報物の保管・持ち出しや処分については、十分注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5	4	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	3		事業所の玄関に各マニュアルを設置するなど、いつでも確認できる形で周知していきたいと考えています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11			事業所全体で、年に2回避難訓練を実施しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		9	2	必要に応じて対応させていただきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11			